



オランダ国際球根協会ニュースレター 震災復興支援 特集 2011年09月号 VOL.030

大震災から半年が過ぎ、復興支援の活動もさまざまに行われています。IBCでは、被災地のみなさまの心が少しでも花で癒され元気づけられますよう支援活動への協力を行っています。私たちもレン・オークメイドはじめ何度も被災地に足を運びました。冬が近づいています。球根を植えるために、今月と来月には集中して活動が行われます。今はまだ、復興への具体的な動きもなかなか見えていない状況ですが、この活動が来春への希望となり、厳しい冬を乗り越える力になることを祈っています。

さて、IBCは、来る10月13日(木)から3日間、幕張メッセで行われる花とガーデン関連の国際展示会「IFEX2011」(幕張メッセ)にJFBブースとして出展いたします。展示の内容については記事をご覧ください、ぜひ、ご来場いただきますようお願い申し上げます。

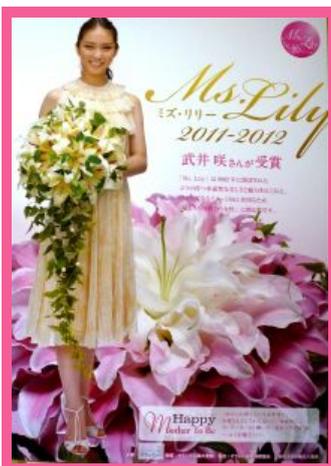
CONTENTS

2011年のミズリリー、武井咲さんのポスター完成、HMTBキャンペーンも3年目に 震災復興支援に関するオランダ国際球根協会の協力についてのご報告

「秋の秋刀魚みたいに」～「DSP球根販売プロジェクト2011」今年も拡大して実施します
オランダ、ナイメーヘン周辺の12の庭園を訪ねて～マーク・チャプマンさんによるツアー・レポート
IFEX 2011(幕張)、JBF「ジャパン パルブ フラワー」ブースでお待ちしています！
クイズ&読者プレゼント 「2011年 IBC オリジナル春咲球根ギフトボックス」

CONTENTS

2011年のミズリリー、武井咲さんのポスター完成、HMTBキャンペーンも3年目に



今年、第10回めの「ミズリリーMs. Lily賞」は7月のフラワードリームで発表され、女優の武井咲さんに決定しました。ポスターも完成し、すでに花キューピット加盟店の店頭などでご覧いただけます。たくさんのユリの花びらを重ねた背景に、今年のテーマリリーである、「ニンフ」の花束を持つ武井さんの雰囲気がとてもマッチしたすてきなポスターになりました。6月号でもご紹介しましたが、ユリの魅力は、花の豪華さや気品、色のバリエーションのほかに、豊かな香りを抜きには語れません。この妖精を意味する「ニンフ」というユリは、フリージアに似たさわやかな香りを持つオリエンタルリリーです。

一昨年に始まった「ハッピー マザー トゥー ビー Happy Mother To Be」キャンペーンは、この10月から3年目に入ります。JFTD加盟店向けのキャンペーンガイドも刷新され、生命の源である母性への感謝、お母さん、働く女性を対象に、年間を通してキャンペーンを行います。HMTBは、「これからお母さんになる女性に。お母さんとして頑張っている女性に。そして、いきいきと輝いているすべての女性に。～ユリを贈ろう！～」をキャッチコピーに、花キューピット協同組合とIBCによる共同のユリキャンペーンです。詳しい内容や、テーマになるユリについては、IBCのHPをごらん下さい。<http://www.kyukon.info/>

震災復興支援に関するオランダ国際球根協会の協力についてのご報告

【1】 フラワーロード陸前高田 花壇再生プロジェクトについて

陸前高田市は、もともと震災前から市民に園芸愛好家が多く、国道45号線に沿って1kmにわたり市民が管理する45基の花壇がありました。道の駅高田松原を中心とした国道45号線に平成6年から17年以上、地域、中高生、老人クラブ等の世代間交流ボランティアで花苗15,000本、花壇の長さ約1kmの沿道に花壇植栽を手掛け、地域の花文化を盛り立ててきましたが、今回の震災の津波によりすべて流されてしまいました。12ブロックあった花壇のうち6ヶ所は花壇自体が流されてしまったのです。このうち3ヶ所の花壇造成は地元造園会社が支援してくれる予定ですが、残りの3ヶ所は花壇自体の整備のめどが立っていません。

花と緑の復興支援を進めるボランティア団体「希望の花いわて3.11」の吉川三枝子(滝沢村)氏は、吉川さんご本人の師でもあり長年この花壇に携わってこられたフラワーロード陸前高田の代表 鈴木勝井 さんに協力したいという思いから、「花のカプロジェクト」(<http://hananochikara.org>)とIBCに支援の要請がありました。被災者の皆様には、再生に向けて前を向いていく気持ちになっている方々、まだその状態まで至っていない方々とさまざまです。そのなかで、地元の人々から信頼を持って敬愛されている鈴木勝井先生のリーダーシップの下、この花壇の再生を行うことになりました。道路を所管する国土交通省の許可もすでに取得済みです。

花と緑の復興支援で、現地とのコーディネーター役となっていられるのがフリーカメラマンとして活躍されている桜野良充さんです。桜野さんは、この取り組みがきっかけとなり、近隣の皆様もより早く復興再生に向けて前向きに取り組ん



でいけるようになればと希望を託しています。また、このプロジェクトには桜野さんの声掛けでオランダの人気ガーデンデザイナー、ジャクリーン ファン デルクルートさんがボランティアとして9月20日～(視察下見)と11月3日(植え付け)に来日することが決定し実際に9月22日と23日に現地に向かいました。IBCはこのプロジェクトのために球根とジャクリーンさんの渡航費(2回目)等を支援します。

フラワーロード陸前高田花壇再生プロジェクト詳細な場所について >>>>>> <http://g.co/maps/y3b5>

9月22日にジャクリーンさんが現地を訪ねました。球根植栽シーズン真っただ中のスケジュールを縫って、成田に到着されたのは、9月21日朝。台風15号が来ていました。この台風の中、車で11時間かけて陸前高田市に到着しました。翌22日は、現地の視察、ピオラや鉢物生産者さんの訪問など、現地のボランティアの皆さんと精力的に活動し親交を深め、23日には、車で成田に向かい、24日朝のフライトで帰国されました。



【2】 吉田正子さんの庭

吉田さんは、600坪の庭を丹精こめて手入れしていましたが、津波で流されてしまいました。「花畑プロジェクト」(<http://giraffa.force.com/hanabatake>)の協力で高台の動物病院の土地を借りて、200坪のヒマワリ畑を作りました。このヒマワリが咲き終わった跡に、ジャクリーンさんの植栽プランで球根とパンジーの花畑を作ります。ジャクリーンさんは9月22日の来日の際には、こちらの花畑も視察しました。球根はIBC協力、パンジーは「花のカプロジェクト」が岩手の生産者から購入予定です。

この計画に合わせて、オランダの球根輸出会社5社（Jan de Wit & ZN .BV、P.F.Onings BV、Tuberbulb Export BV、Van Zanten Flowerbulbs BV、Haakman Flowerbulbs BV）、社団法人日本花き生産協会球根切花部会、また輸送に関してはCOPEX Air Cargo、株式会社日新にご協力いただき、50,000球の春咲き球根が、復興地の皆さんのために贈られました。これらの球根は、IBCオランダ国際球根協会を通じて復興各地での植栽に使用されます。

ジャクリーンさんはフラワーロード陸前高田花壇再生プロジェクトのために年内に2度、来日されます。9月22日の調査、視察（実施済）と11月3日に地元の皆さんと国道45号線の花壇に植栽の予定です。

【3】音楽と笑いでみんなを元気に！オランダの音楽家グループ「ハイ&ロー」の復興支援活動

ロッテルダムでアクロバットと音楽を組み合わせたユニークな音楽活動を行っている今渡久美さんたちのグループ「ハイ&ロー」(<http://www.hooglaag.com/>)は、日本の震災支援ボランティアとして来日し、被災地を回って「爆笑音楽会」を行いました。彼女たちの日本での活動は、次のような言葉に表されています。「私たちは音楽と笑いが心の癒しとなり、文化復興の助けになると信じています。音楽と笑いを日本へ！ハイ&ローは、震災で被災された方たちに音楽と笑いをお届けします」音楽会の活動は8月に行われ、たくさんの方々に笑顔を元気を届けることができました。



以下、今渡久美さんからのお手紙を紹介します。



日本へ1000個のチューリップの球根を贈るとというのが私たちハイ&ローの願いの一つでした。被災地の無残な映像を目の当たりにしてどうにか色と明るさを届けたいと強く思いました。一年後の春にチューリップが花を咲かせ、人間と自然の逞しい復興を象徴して欲しいと思っています。

この願いを叶えるためにオランダ国際球根協会が寛大なスポンサーをしてくださり、女川で受け取れるようにと球根50個入りのギフトボックスを20箱送ってくれました。

まず、宮城県の女川町立病院には、250個のチューリップの球根を贈ることができました。病院は高台にあるにもかかわらず、津波があまりにも大きく、一階の天井近くまで来ました。贈られたチューリップは、被災者でもあり、日本に来てと言ってくれた持田耕明さんによって植えられます。この町と人々にとってはこれからの道のりがまだ長いのですが、チューリップがポジティブなエネルギーを与えてくれることを願っています。



宮城県南三陸町の志津川荒砥と福島県田村市には、600個のチューリップの球根が、地震、津波、原発事故の被災者の方々に配られました。お客さんの多くが宝物のように胸にしっかりと球根を抱いて帰って行きました。福島で家が汚染地域にあるため仮設住宅に住んでいる一人の女性が言いました「本当にありがとうございます。前は庭にチューリップがたくさん咲いていました。今は仮設なので庭はなになのですが、植えてたくさん増やしたいと思っています。」



残りの150個のチューリップの球根は福島県いわき市から聴きにいらしていた小中学校の校長先生に渡しました。放射能の影響で、たくさんの子どもが地域外に出たそうです。色とりどりのチューリップが残っている子どもたちに元気を与え、他の子どもたちが帰ってきたときに温かく迎えてくれることを願っています。レン・オーク

メイドさん、ありがとうございます！

今渡久美（ロッテルダム在住チェリスト）

日本での報道 <http://www.hooglaag.com/2011/09/japanese-press-release.html>

「秋の秋刀魚みたいに」～「DSP 球根販売プロジェクト 2011」今年も拡大して実施します



今年も「DSP ドライセールプロジェクト」(球根の実験販売のプロジェクト)が始まります。昨年、「球根を秋の秋刀魚みたいに販売しよう」と言っていたことを覚えていらっしゃいますか？お花屋さんやガーデンセンターの店頭で販売される球根が、「秋の到来」を告げています！

このプロジェクトは、2008年、切り花の販売から始まっており、食品スーパーマーケットなど街なかにある量販店のほかに、「エキナカ」つまり駅構内の売店にも専用什器を設置させていただきました。主にセルフサービスの方法で、切り花チューリップを販売するテストを行いました。切り花に続いて始まった DSP は、球根を販売する実験プロジェクトです。春咲き球根の植え付け時期に合わせて実施しています。通勤やお出かけの帰り道や、自転車に乗って買いにいけるような場所で、「お買い物をついでに球根を買う」、そんな経験ができるような売りかたを試しています。スーパーマーケットでの球根販売テストは、昨年は東京を中心とする首都圏だけでしたが、今年は関西でもモニター販売を行います。販売期間は4週間です。

秋に球根を求めるお客様には2つのタイプがあり、「球根を必ず購入する消費者(メリーさんと呼んでいましたね！)」と「都合によって球根を購入する消費者(ジョンさん)」に分けられます。「メリーさん」は、お花が大好きで、ガーデニング愛好者(レベルに関係なく)。主に種類の豊富なガーデンセンターなどに足を運んで球根を購入しています。一方の「ジョンさん」は、ガーデニングのビギナー。計画的にというよりもむしろ衝動買いで球根を購入される人たちです。ヨーロッパでも「ジョンさん」はたくさんいるようで、球根販売額の全体の4分の1がスーパーマーケットだけで販売されています。

昨年の実験販売を行ったスーパーマーケットでは、想像以上に売れ行きがよいことに驚かれ、今年も継続して取り組んでいただいています。球根は目につきやすい写真付きのパッケージになっていて、「ジョンさん」のようなお客様にとって、わかりやすく扱いやすい商品であることも発見でした。昨年は約1か月の販売期間でしたが、球根の投入とほぼ同時に売れてしまったものもあり、補充のタイミングを改善すればもっと売れたのではないかという反省もあるほどでした。ジャクリーンさんのセレクトしたミックスも人気でした。

球根のディスプレイが季節の変わり目を教えてくれる風物詩になるように、今年も、「秋の秋刀魚みたいに」店頭と並べるシーズンに入りました。DSP では、「ジョンさん」に的をしばって、球根を気軽に手に取りやすい場所で販売実験を行います。専用の販売什器(左上図)は昨年バージョンアップし、ならべる球根の品ぞろえも変え、日本の「ジョンさん」が迷わず選べるような工夫をします。また、ジャクリーンさんのセレクトもラインナップしています。ジャクリーンさんに教えてもらった球根の植え方や楽しみ方を楽しいイラストとともに開設したパンフレット(右上図)も配布します。

DSP のねらいは、(ジョンさんのような)消費者が、球根を気軽に買えるようになること。スーパーだけでなく、街のお花屋さんの取り組みもとても大切だと思います。誠文堂新光社の月刊「フローリスト」10月号は球根販売の特集があり、IBC に取材した記事が出ています。ぜひ、手に取ってご覧ください。IBC ニュースは昨年の9月号を参照ください。



オランダ、ナイメーヘン周辺の12の庭園を訪ねて

～マーク・チャプマンさんによるガーデンツアー・レポート

次は、東京に住む英国人のガーデンデザイナー、マーク・チャプマン Mark Chapman さんによるオランダ・レポートです。これは、毎年春に行われている IBC 主催のプレス向けガーデン視察ツアー。今年は震災から間もない、4月10日から13日までの日程で、東部の街ナイメーヘンとその周辺を訪ねました。レポートは2回に分けてお届けします。



今年の春、私はIBC(オランダ国際球根協会)からの招待を受けて、オランダとドイツにある12の庭園を訪ねてきました。これらの庭園にはジャクリーン・ファン・デル・クルート氏によって球根を植栽するためにデザインされた一画があります。オープニングパーティでは日本を代表して招待された松浦さん(日本人ジャーナリスト)と私の双方ともが壇上に上がり、日本の国旗をイメージした赤と白のチューリップの花束をプレゼントされました。

これは今回、日本の方々が受けた地震と津波による大震災に対して、心からの追悼の意と想いをIBCが表したもので、オランダ国民、そして世界中の他のジャーナリスト達からの気持ちでもありました。



私達は小さな庭から大きな庭まで、全てが個性的な庭を訪問しました。各々、全ての庭が素晴らしく創りあげられ、よく手入れされていました。幾つかの庭はプロフェッショナル達によってデザイン、手入れされていたり、又はオーナー(持ち主)達にデザインされた庭だったり、いくつかの庭は大変プライベート空間を感じられる庭であったり、又は一般に公開されていたり、年月を掛けて手入れされ、愛され、面倒をみてもらい、またある庭は本当に始まったばかり楽しみなものまで多岐多彩でした。天気はまさに私達の期待通りで、球根たちも花を咲かせ、最高の訪問時期でした。



初日のお庭はオランダでは大変珍しく、恐らく日本のものをマネしたものだのではなかと思うようなところが幾つも見られました！ といのも灌木類や樹木類はきれいに刈込まれ(剪定)され、小さなスペース(空間)でも、面白く植物を配置し、上手く土地を利用して庭造りを楽しんでいるようでした。形の揃っていない木製や石階段を76mも登って庭へと上がり、その先に広がるお庭はオランダの中でも珍しく丘の上にありました。(オランダは平坦な土地で有名です！)

アメリキアー(ジュンベリー)は満開に咲き、坂に植えられている灌木類の中に交ざってクリーム色と黄色のチューリップが彩りを加え、ポット(鉢)に植えられた白いチューリップ、ムスカリやシラーはテラスを色鮮やかに飾っていました。(後編は次号に続く)

IFEX2011(幕張)、JBF「ジャパンバルブフラワー」ブースでお待ちしています!



IBCは、10月13日(木)~10月15日(土)千葉県千葉市幕張の幕張メッセで行われる第8回国際フラワーEXPO IFEX2011にJBF「ジャパンバルブフラワー」として共同出展します。

JBF「ジャパンバルブフラワー」は、昨年に引き続き、(社)日本花き生産協会(JFGA)球根・切り花部会と、(社)日本花き球根輸出入協会(JFTA)、そしてオランダ国際球根協会(IBC)の3団体による2回目の共同出展となります。日本の球根や球根切り花に関わる人々が一致団結、協力し合って、日本の球根切花産業の力強さをアピールします。

今年の展示では、日本で栽培されるユリとチューリップを中心とした球根切り花の展示と球根販売のさまざまなアイデアをご紹介します。豊かな品種構成と品質の高さを誇る「国産ユリ」切花のほか、昨年に引き続き、「ホームスイートバルブ Home Sweet Bulb プロジェクト(花芽つき鉢植え球根)」もご案内いたします。



昨年のJBFブースの様子

今年の注目は、オランダで有名なファッションモデルをブランドイメージとした「ギフト商品」のシリーズです。あっと言わせるアイデアと、思わず買いたくなるすてきなパッケージの実物を展示してご紹介します。また、球根花の楽しさ、かわ

